

(10月25日(土))

ハケ岳 清里駅～汝ノ湯 (赤岳～横岳～硫黄岳～天狗岳縦走コース) 1日目 清里駅～清泉寮～賽ノ河原～牛首山～赤岳～頂上小屋(泊) 1/2

行き 1975 昭和50年10月24日(金) 夜行

中央本線 名古屋駅発 急行さそ4号 23:30～
塩尻着 3:05～6:07 夜眠 小淵沢着 7:14 発 7:26
清里着 7:59

登山者 奥村光信 T14.3.20 (装具出発時 17時)
実兄 尾崎久次 T12.1.2 (" 15)

ハケ岳、2年前から計画はしていたが
単独行は好まないで、仲間4人か
が訪れなかった。兄が「どこかへ
行かないか……」と訪われ、ニツ返
事でハケ岳に決めた。本々地
図で以前から調べてあったので
主峰赤岳に登ることを第一条件
に、列車の関係と、小海線に
乗ってみたりことから清里から入
山することに決定。天気が良け
れば赤岳から中山峠まで縦走
する計画で、出発前日まで雨
だったので、絶対天気に恵まれ
ることを期待して清里へくる。

大きな山裾、広大な高原をもつ
ハケ岳は真白なシラカバ、真紅の
ツツジ、秋のカラマツ、雄大な展望
は魅カタツリ……

われ山に何ぞ目とあけん
わが助けは、いすこより
きたるべきぞ

10月25日(土)
霧がおりてくもり状態
朝 8:00 清里着
気温 12℃
標高 1274m

至小諸・松原湖
野辺山 1396m 最高 1375m

清泉寮2kmの
道標あり

登山路といつても植林道だ。
草深い、細い道の両側一帯
は、黄金色豊かに立ち並ぶ
美しいカラマツの林だ。荘厳
な風景は、夏と違ひ、静寂さ
と相まって……気分だ。

やっと真教寺尾根登山口に着く。
アスファルト横断道路が入口の
道標を違て手間どつたかも
大丈夫、これからほんどの登山
路に入る。薄着になって霧の中へ

地図や本には、牛首山は
ここになっているが、到着
して大道標を見上げると
なんと天狗岩と表示して
ある。根元には黒府摩
利支尊天と刻まれた石
碑が立っている。

今日は、
紅葉と楽しみ
ながらのゆっくりした登山だ。
大きな広場の地獄谷側
には柵があり、ガレへの転
落を防止している。展望も
よく休憩にはもってこいだ。

急登で苦しい登りの中、
ドウダンツツジ、リョウブ、
ナナカマド、ヒューゲンなど
直木にもえる紅葉が
美しい。

このヒューゲン樹林帯の中で何も
見えな。夏は日陰で……よ。法。
雨や雪のあとでゆるい登り下りの
尾根筋はジメジメして凹地は
道も悪い。

ガスが途切れ、
かき見主峰
赤岳の岩峰は、
想像していた以上の
厳しさだ。

ガイドブックのいつも逆コースになる。
今回もそうだ。本は東京からの関係
真教寺尾根から登山するものは
我々2人だけ。下山者は数人
赤岳の積雪 20～30cm 25日
は快晴だったと……

岩壁に垂れ下る冷たい太い
くさりさ過ぎ、酸化した茶
褐色の岩の斜面に吊り下
げられたワイヤーロープの最後
の急登を登りきると、竜頭
峰の基部へ着く。おおいにお
さるような風化した岩峰を左
から巻いて赤岳へ……

13:30頃よりだんだん急登になる。
赤土のザレ、大きな塊岩と木の
根っ子、這いつくばつての登り、
滑りやす、ドロコ道、岩稜と
ハイマツ、左側は地獄谷の
上部、赤岳沢、大きなガレで、
次々現れくるくさり場の危
険箇所が続く。その奥上
部にはガスの切れ目からそそ
り立つ特異な天狗岩がツノ
のように鋭く天を突いている
のが望まれる。

竜頭峰を左側から巻き込んで、深いガス
の中を鋭角なコルへ立つ。兄が突然プロ
ツケンだ」と声を上げる。よく見ると、指さ
す彼方、数メートル先の谷間のガスの中に、
直径1メートルぐう、厚さ10cm余りの蛇の
輪の中に自分の陰がホヤッとアミダ様
のように収まっている。確認するために、
手を振って羽ばたかしてみ。蛇の中の
陰も同じように羽ばたいている。
太陽が雲の中へ入ると消え、太陽が照
ると又現れる。数回眺めてから写真に
撮る。ここで20分ばかりプロツケを観察し
てから、赤岳南峰へ真登する。頂上に数人
挨拶して真ぐに北峰 最高点へ到着。
正味歩行時間 5時間30分 休憩、食事、写真
など 2時間20分 合計 7時間50分のコース
だった。(清里駅より)

16時 小屋へ入って宿泊の申し込み、夕日を眺
め、明日の天気を祈って酒で乾杯だ。
50名以上、小屋は仲々賑わって若者はか
り、石油ストーブで暖かい。7時消灯

